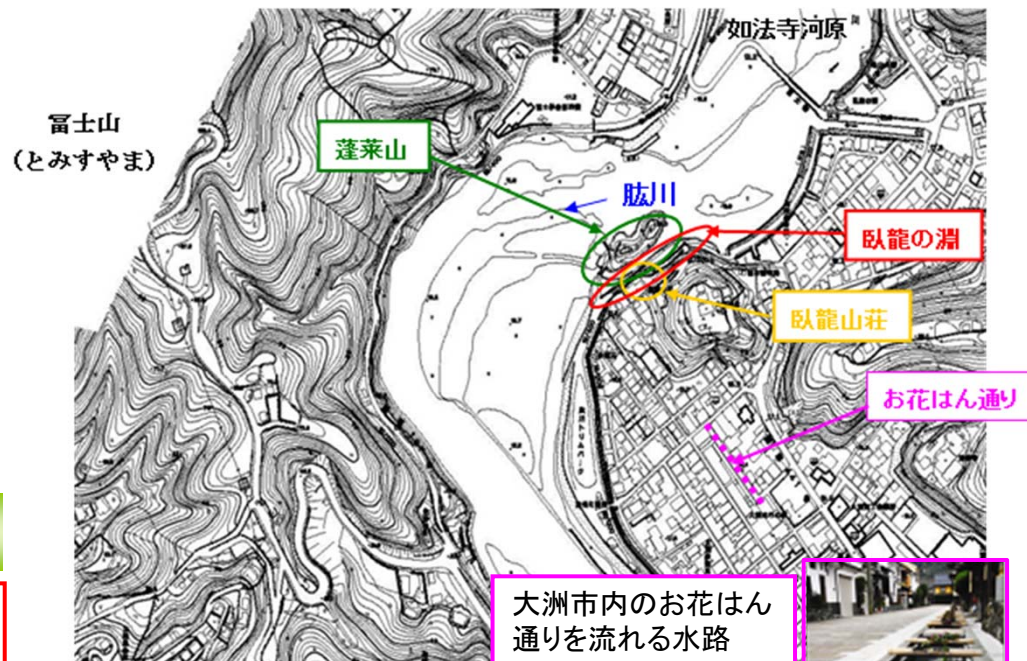


当箇所には塵芥が堆積する要因の一つとして渡河橋及び取水施設（河川管理施設）の配置が関係している。  
現在は、景勝地でもあることから、塵芥が堆積する都度撤去しているが、現地条件の関係から人力施工となるため、コスト高となっている。  
そのため、河渡橋及び取水施設を含めた塵芥対策を行うことで、良好な河川空間形成及び塵芥処理費用のコスト縮減を図ったものである。



## 流木・ゴミ等の対策



洪水時に発生する塵芥（ゴミ・流木等）が渡河橋にせき止められている状況



鵜飼いのトイレ休憩所への連絡道となっている現渡河橋  
また、大洲市内の水路へ導水している現取水施設（渡河橋手前）



渡河橋及び取水施設を低くし、流下阻害を解消した。

大洲市内のお花はん通りを流れる水路



円筒形型枠を使用することで、渡河橋の端部を垂直にせず、塵芥を掛かりにくくし、景観に配慮した。

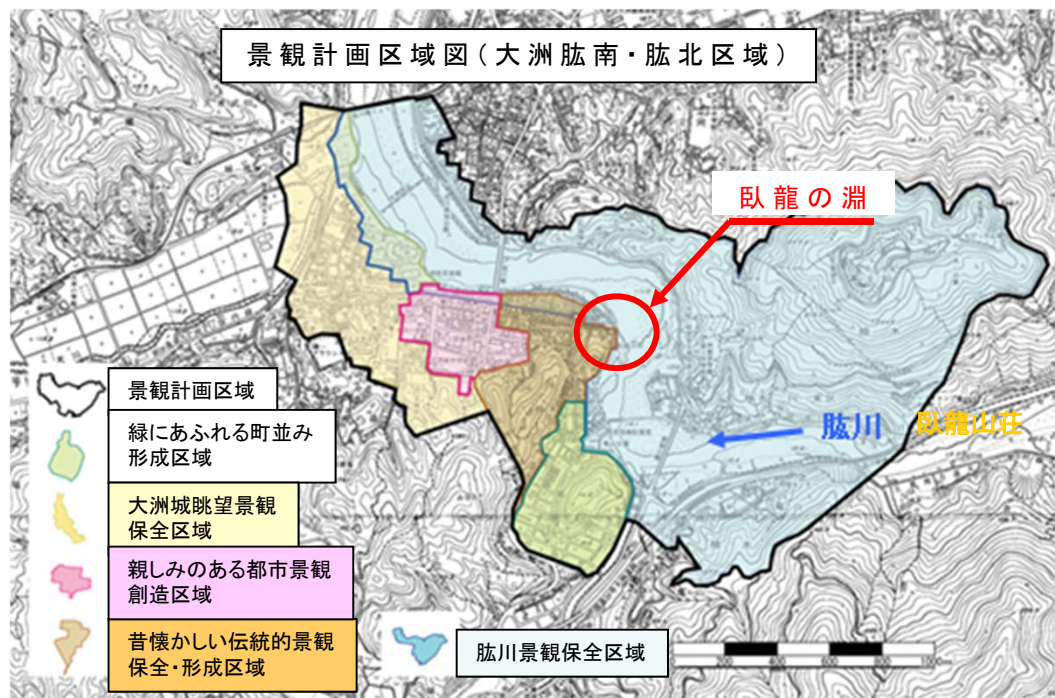
※) 大洲市景観保全区域に指定されているため、景観と調和に配慮しながら流下阻害を解消。

(参考)

## 〔景勝地〕 臥龍の淵

蓬莱山が龍の臥す姿に似ていることから、大洲藩三藩主加藤泰恒が“臥龍”と命名したとされる。

清流肱川河畔で最も優れた景勝地として、南に如法寺河原、東に富士山(とみすやま)を借景とした典雅な景観である。大洲観光の目玉である鶺鴒い船、渡し船等観光遊覧からの眺めもすばらしいものである。



大洲市の観光の目玉である鶺鴒い

